

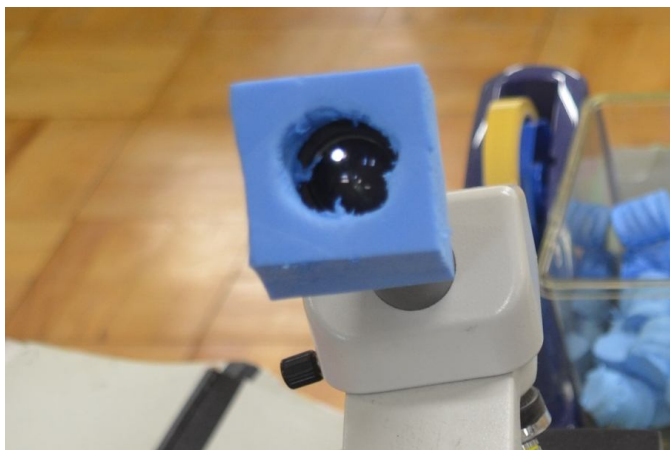
「オシロイバナの探究 (4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

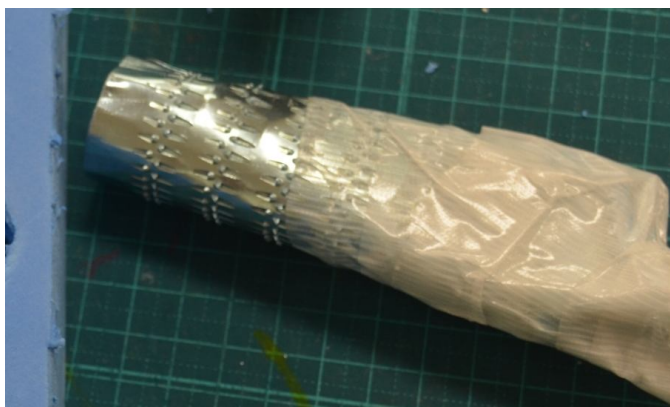
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

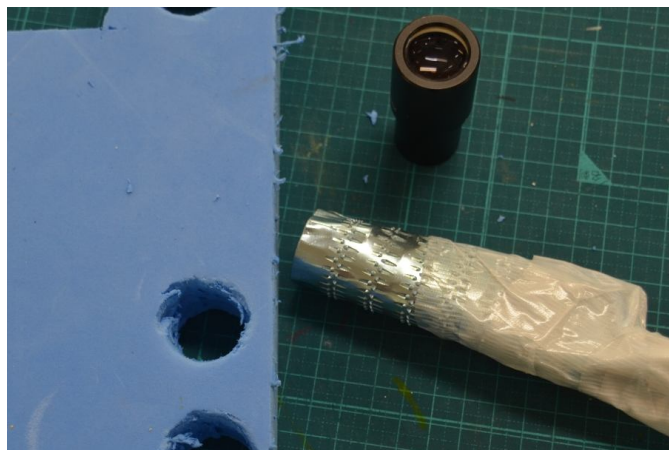
顕微鏡もクロームブックも「一人一台」貸与している。今回の「花粉の観察」のように、顕微鏡画像が有効な内容の場合、クロームブックのカメラで顕微鏡画像を撮影できることが望ましい。実際に子どもたちは挑戦しているのだが、接眼レンズとクロームブックに2~3cmの隙間があると、ピン트가合いやすく、視野も確保できる。しかしこれがなかなか難しく、子どもたちからも「隙間をあける器具(スペーサー)がほしい」という要望が多かった。恐らく専用の器具も市販されているのだろうが、ここは自作することにした。



「スペーサー」といってもこのような樹脂(プールで使うビート板と同じ素材)に穴をあけただけの簡単なものだ。しかし、大量生産するとなると、1個ずつカッターで切り取ったのでは時間がかかる。



そこで強力な「武器」を開発した。アルミニウム製の「大根おろし器」を無理やりリング状に曲げたものである。これが非常に役に立った。



この「高速穿孔器」をねじこむと、約10秒で穴をあけられる。穴の直径は、接眼レンズよりも数ミリ小さくしたほうが安定する。切り分けは、普通のカッターナイフで可能なので、短時間で完成する。



1人1個を用意したかったが、素材の数が不足で20個ぐらいしかできなかった。それでも2人に1個はできたので、さっそく使わせてみた。



クロームブックは、モニター部分の裏側にキーボードやカメラを裏返し、タブレットPCのようにも使える。こんな簡易な道具だったが、撮影の鮮明さ、ピントやフレーミングの合わせ方等が劇的に改善し、観察や撮影の能率も上がった。